

○議長（茅沼隆文）

それでは、次に一般質問に移ります。

7番、下山千津子議員、どうぞ。

○7番（下山千津子）

7番議員、下山千津子でございます。

通告に従いまして、「南部と北部の交流人口の推進策は」について質問をさせていただきます。

開成町は、日本一元気な町を目指して“元気”を発信し続けております。平成25年4月からスタートしました第五次開成町総合計画の前期計画では、「明るい未来に向けて人と自然が輝くまち・開成」を将来都市像に掲げ、“町民が主役”となっていて、いつまでも住み続けたいと思えるまちづくりを進めることとしております。

平成27年度には南部地域の整備がほぼ終了し、今年の1月からは本格的に、あしがり郷拠点整備や瀬戸屋敷周辺整備検討委員会の報告書をもとに、町長自ら北部地域にお入りになり北部地域の活性化に臨まれております。この報告書では、地域内外の交流を促し、1年を通して顔の見える関係をつくることも掲げております。これらを実現するためには、町内の特に南部地域や北部地域の住民の皆様、それぞれの地域の魅力を改めて掘り起こし、そこを発信することで新たな交流が生まれ、町全体の活性化に結びつくと考えます。

そこで、次の事項について伺います。一つ、南部と北部の住民に各地域の魅力をどのように発信していきますか。二つ目、瀬戸屋敷を中心にした景観づくりの後は。三つ目、町のイベントにかかわる南北の足の確保策は。四つ目、子どもたちの元気な声が響く施策は。以上、壇上からの質問とさせていただきます。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

それでは、下山議員のご質問にお答えします。

一つ目の「南部と北部の住民に各地域の魅力をどのように発信をしていくか」ということでありますが、開成町は歴史的に町を北部、中部、南部の三つのエリアに大別し土地利用をしており、その結果、町全体としてバランスのとれた発展を遂げて今日に至っております。第五次開成町総合計画でも、これまでの考え方を踏襲し、それぞれ北部地域エリアを「ふるさと」ゾーン、中部エリアを「くらし」ゾーン、南部エリアを「ときめき」ゾーンと位置付けております。

足柄平野の原風景ともいえる開成町北部の美しい田園風景は、将来への大きな資産であります。この「ふるさと」ゾーンの北部地域については、あじさいまつりやひなまつりなど各種イベントや、開成駅前毎週開催しているマルシェ開成等における農産物の直売等、さまざまな機会や手段を通じて北部地域の魅力を発信していきたいと考えております。

瀬戸屋敷ではさまざまなイベントを開催し、豆まき、ひなまつり、端午の節句やお月見等の年中行事を行っております。また、北部地域のよさを知っていただくため、あじさいまつりやひなまつりの開催時に住民の皆様の特典として瀬戸屋敷への無料招待券を配付し、足を運んでいただくなど北部地域のPRにも努めており、これらの取り組みをさらに充実していきたいと考えております。

一方、「ときめき」ゾーンの南部地域は、足柄紫水大橋の開通や開成みなみ通り、開成中央通りの開通等により、足柄上地区の人やモノの流れが大きく変わり始めております。昨年竣工を迎えた開成町南部地区土地区画整理事業により都市機能の充実も図られ、良好な住宅地、商業拠点及び産業拠点としての集積を図る地域となっております。昨年は、開成町みなみ街開成式等のイベントの開催で町の魅力を発信してきました。引き続き、企業との連携をはじめ、町広報紙やホームページなどで新たな質の高い生活環境の提案について随時発信をしていきたいと思っております。

二つ目の「瀬戸屋敷を中心とした景観づくりの今後」について、お答えをいたします。昔ながらの趣が残る田園風景と水辺環境は北部地域の特徴であり、貴重な水や緑を守り育てながら自然と共生し、自然と融合した、まちづくりを進めてまいります。北部地域の拠点施設である瀬戸屋敷は、その歴史性や豊かな自然環境を生かした広域ふれあい拠点として、引き続き景観の維持と魅力を発信していきます。

開成町都市計画マスタープランでは、人・自然に優しい環境保全型農業と広域観光を推進するとしております。また、観光客が散策をしながら楽しめる親水性のある水路への改修やホテル公園等の親水空間の整備、地域資源である町の花あじさいや、瀬戸屋敷等の昔ながらの建築物を基本としたデザインコードを取り入れた街並みの形成を進めていきます。また、良好な自然環境や景観の維持に配慮したまちづくりや、ランドマークとなる酒匂川沿いの松並木の維持・保全などでも北部地域の景観づくりを考えていきます。

昨年度策定した開成町あしがり郷拠点整備基本計画では、レンゲの咲く田園風景の復活やホテルが飛び交う水田環境の維持が挙げられております。また、説明会での意見として、開成町でも以前は菜の花を収穫して菜種油を抽出していた時期もあるので、菜の花畑の復活などの提案を受けたところでもあります。こういった美しい原風景の再生を中心に、景観を創っていききたいと考えております。

三つ目の「町のイベントにかかわる南北の足の確保策」について、お答えをいたします。現在、「開成町あじさい祭り」、「開成町瀬戸屋敷ひなまつり」では、開成駅よりシャトルバスを運行しており、相当数の来訪者の方にはご利用いただいております。他の南北の足の確保策としては、イベント用の運行ではありませんが、本年度から試験的に運行している町内巡回バスを使用することも可能であると考えております。

四つ目の「子どもたちの元気な声が響き渡る政策」について、お答えをいたします。現在、策定に着手をしております国庫補助事業である北部地域活性化計画では、開成町あしがり郷拠点整備基本計画を基礎に、さらに先進的な取り組みや考え方を

取り入れた施策の策定に向けて、多くの町民の皆さんのご意見を伺いながら、取り組んでおります。現在、子どもたち向けの事業としては、瀬戸屋敷において紙芝居、パネルシアター、人形劇、読み聞かせ、歌遊びなどを実施している蔵ひろばをはじめ、ひなまつり、ホタル観賞会、米栽培体験学習やジュニアサマースクールなどが挙げられております。

また、北部地域活性化計画を策定するために設けられた開成町北部地域活性化協議会において検討しておりますリーディングプロジェクトの三つのプロジェクトとして、『あしがり郷・レンゲとホタルの郷プロジェクト』、『あしがり郷・魅力発見と庭先ふれあいプロジェクト』、『あしがり郷・農と恵みと郷のいえプロジェクト』について検討しており、北部地域に子どもたちの元気な声が響く政策を取り入れるべく進めております。

その中の例として、㊦として、子どもたちのホタル祭りの開催、これはホタルの飛び交う水田環境を残していくために、ホタルの養殖や、クリーンデーの用水路清掃に子どもたちが参加や、ホタルの見学会を開催するものと考えられます。㊧として、子どもたちのレンゲ祭りの開催、これは、レンゲの花咲く田園風景を取り戻すために、レンゲの種まきから摘み取りまで子どもたちが参加をし、特にレンゲの摘み取り体験を行うものも考えられます。

㊨として、おじいちゃんの手仕事に注目をし、地域に残る昔遊びや竹細工、わら細工の技術を伝承するために、地域外の人や子どもたち向けの昔遊びや工作体験のほか、後継者育成のための達人講座を開催するものも考えられると思います。㊩として、あしがり郷稲むらアート体験として、北部地域の昔ながらの田仕事の文化を楽しみながら伝えるために、地域内外の子どもたちも参加をして、稲むらづくりや、わらを使ったアートの作品づくりの体験等も提案されております。

これらを踏まえ、子どもたちの元気な声が響く未来の開成町の子どもたちへ、一つでも多くの事業が展開できるように考えていきたいと思っております。

以上ですので、よろしくお願いいたします。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

ただいま詳細に答弁をいただきましたが、今回のテーマであります南部と北部の交流人口の推進策でございますが、先ほど同僚議員の質問に対して町長が答弁された中で、交流人口を増やしていきたいと、つまり観光人口を増やしていきたいと言われておりました。もちろん、足柄地域の観光人口が増えることは経済が伴いますので推進していただくわけですが、今回の私の質問は、町民が主役となって、いつまでも住み続けたいと思えるまちづくりを実現するためには、北部地域の活性化に動き出された、このタイミングを捉えて南部地域の方々が北部地域との連携と交流をされ、特に町内の交流人口を活発にして元気を発信し続けることを願って随時、再質問をさせていただきます。

北部地域を「ふるさと」ゾーンとして、これまでの考えを踏襲して魅力を発信していきたいとされ、瀬戸屋敷のイベントや年中行事など、さらに取り組みを拡充し北部地域の魅力を発信していきたいと述べられましたが、具体的にはどのように発信していけるのか、お伺いいたします。

○議長（茅沼隆文）

産業振興課長。

○産業振興課長（井上 新）

下山議員のご質問にお答えをさせていただきます。

町のほうでは、南部の方を北部にといったところでは、一つは、町長のほうもご提案をさせていただいてございますけれども、各種イベントとか、例えば、あじさいまつり、ひなまつり、そういったところでは、町民の方々に各世帯にイベント時の無料券をお配りをしたりとか。そういった形の中で、南部の方だけではございませんけれども、一つは町民の方に北部の魅力を知っていただくということで、そういった取り組みをやらせていただいているところでございます。

総合計画にもございますとおり、北部は「ふるさと」ゾーンになってございますので、そういった魅力をより多く発信をしていきたいと。南部につきましても、土地区画整理事業が終了した、そういった機会でもございますし、町長答弁にもございましたとおり、都市機能の高い生活環境の部分、より提案をしていきたいといったところでは考えておるところでございます。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

下山議員のご指摘の町内の中の交流もすごく大事だなと、改めて、私も今、下山議員のお話を聞いて思いました。町の全体の大きな流れとしては、せっかくのオリンピックで箱根と南の道路がつながるということで、これをチャンスと捉えて北部には交流人口という話でさせていただいておりますけれども、北部地域に2月に二度ほど、地域に入っているいろいろな計画の説明会をさせていただきましたけれども、何で交流人口かというのは、ただ人をにぎやかにすることだけではなくて、北部地域の優良農地を守っていくには、後継者問題を含めて、いろいろな課題が今、北部地域にはありますので、それをあわせて解決をしていかななくてはいけないという二つの課題があります。それを兼ねて交流人口を増やしながら北部の農産物を、ここにきちんと、六次産業化も含めて、価値を高めて、収益、所得の上がる方向という形の合体の中で交流人口を増やしていきたい、整備をしていきたいと考えております。

そういった中で、開成町に移り住んでいただいた方のアンケート調査の中でも、豊かな自然があるから開成町はいいのだという形で、特に南部地区に来られた方もそういうふうな答えが多くありますので、そういう人たちが北部の人たちの、景観も含めて、どのようなことが行われているかというのは。マルシェということ

で毎週日曜日、駅の東側で北部の農産物を直接、北部の人たちに売っていただいて交流する場ということでやっておりますけれども、もっともっと北部のほうに南部の人たちが来ていただいて、これは巡回バスに乗っていただいても結構なのですが、そのような形で、できるだけ町内の中でも北部と中部、南部の交流が進むように促しをしながらPRもこれからはしていきたいと。大変重要だと考えておりますので。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

よく理解させていただきました。今回、元気を発信し続けるということで、辞書で調べましたら、「元気」というのは精神的な健康であること、体の健康であること、経済的健康であることが、要するに、精神的というのは癒されたり満足する、体の健康は、おいしいものを食べて楽しく元気に暮らすこと、経済というのは、やはり、おわかりのとおりでございますが、そういった意味での元気ということで、北部地域にも経済が伴うような、そういう施策をやっていただけたらありがたいなというふうに思います。

先ほど、ひなまつりの住民への特典といたしまして無料招待券を配付されておりますが、今年から1枚にされた理由をお聞きいたします。

○議長（茅沼隆文）

産業振興課長。

○産業振興課長（井上 新）

ひなまつりの関係ですので、お答えをさせていただきます。

まず、開成町瀬戸屋敷ひなまつりということで、2月20日から3月7日、今週末まで開催をされているわけですが、ひなまつりのほうの実行委員会でこちらのほうは形成をされてございまして、こちらのほう、町のほうの補助が一切なく独自事業ということで実行委員会形式でされているものでございます。

昨年まで、いろいろと事業を展開した中で、余剰金が発生した場合、寄附金という形で数年来、実行委員会のほうから町のほうにいただいていた経緯もございますけれども、昨年、期間を延長いたしまして、ひなまつりを開催させていただきましたけれども。トータルの人数は例年どおりの人数が来たのですが、期間を1週間ほど延長させていただいたのですが、開催経費の人件費であったりとか物品のレンタル料であったりとか、そういったところが大分かさんだ割には人が伸びなかった。そういったところで、実行委員会経費のほうも、どうも底をついてしまったといったところもございまして。

無料券のほうは2枚、住民の方にお配りをして来ていただいたわけですが、無料券といいましても、通常の入園料が300円ということでやらせていただいていたわけで、600円の無料券というカウントの中でやらせていただいていたので

すけれども、そちらのほう、開催経費のほうがちょっと底をついたということで、大変恐縮ですけれども、入園料のほうも400円に値上げをさせていただきながら、町民の方、無料券という形では1枚、各世帯へ行くように手配をさせていただいたわけなのですが。そういった経過の中で、開催経費の部分では工夫をしたといったところに経過としてはなっております。

ただ、おかげさまで、今年はNHKさんの放映を機会に、全国から開成町の瀬戸屋敷のひなまつりにお越しをいただきまして、昨日、3月3日でしたけれども、1万人を超える方にお越しをいただいております。そういった観点では、今年の部分については予定を上回る方々にお越しをいただいておりますので、そういったことを受けて、実行委員会でそういったご報告をさせていただきながら、今後の検討材料という形では考えていきたいといったところでございます。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

今年はNHKの全国放送に取り上げられたことは、私も存じ上げております。また、今年は横浜高島屋から展示のオファーがあったということで、大変評判が近隣でいいということもお聞きしておりますので、お客様は多いのだなというのはわかりました。

無料券のチラシのホチキスどめでございますけれども、全戸配布ということだと6,000部、ホチキスどめをするということは大変な作業だと思うのでございますが、町の広報紙の2月号にですけれども、刷り込んだ形にしたらどうかと思いますが、町の考えはいかがでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

自治活動応援課長。

○自治活動応援課長（遠藤直紀）

議員の質問にお答えいたします。

広報の配布につきましては、自治会を通じて町民の方にお配りしているところと、あと関係機関のところに配付をしているところと、あと公共施設に配架しているところがございます。役場であったり駅前であったり駅であったり、コンビニなんかもそうなのですけれども、そういったところに金券となる扱いのもの、そういう価値があるものをつけるのはどうかというようなところで、つけていないという経過がございます。

以上でございます。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

私も、今回、この質問をさせていただくために近隣でのケーススタディーがあるかどうか調べましたところ、広報紙に2枚刷り込んで無料提供されている市がござ

いました。電話でお聞きしましたところ、広報紙を持っていかれるのは、それだけ大勢の人たちが、ひなまつりとか、そういうところに来ていただくということで、大変喜ばしいことではないかというふうにお電話で言われてございました。考え方ではございますが、開成町では何部ぐらいの公共施設へのそういった配付をされているのか、お聞きいたします。

○議長（茅沼隆文）

自治活動応援課長。

○自治活動応援課長（遠藤直紀）

すみません。ちょっと今、手元にないので、後ほどお答えさせていただきます。
すみません。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

事前に私も調べさせていただいたのですが、福祉会館とか駅とか水辺公園とか、そういうところとか、あとセブンイレブンとかにも置かれているようでございます。部数としては200から250というふうに伺ってございますので、ざっと計算しますと400円を250倍しますと10万円ということですがけれども、財政が大変厳しいという先ほどのご答弁もございましたが、考えようで、一人でも多くの人に来ていただくということでは、金券ということでございますけれども、お金で誰かに譲るとか、そういうことは多分、町民はなさらないと思うのです。ですので、そういったサービスをされるというお考えは、盛り込んで町民サービスをするというお考えは町当局にございますか、お伺いいたします。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

下山議員がホチキスどめで6,000部をやるには、また券を発行して別で印刷するには手間と経費がかかるから、それに織り込んでやったらどうかということだと思いますけれども、基本的に、先ほど、町民の皆さんに来ていただくために無料券を発行しているという趣旨もありますので、そういうものを含めて検討材料には私はなと思いますけれども、いろいろなところに置いてある中で、町民ではない人がその券を持って来られるのはどうかなというのが。

お客さんに来てもらうための一つの手段としてはいいのですけれども、どちらをとるかで。町民の皆さんに無料券を発行することに、瀬戸屋敷のほうに来ていただきたい、まず足元から拡大をして、よく町民の皆さんに知っていただきたい、そこから外にPRをしていきたいという趣旨がありますので、その辺も含めながら、あわせて経費が削減できるなら、そういうことも検討材料だなと思いますので、その点はちょっと考えさせていただきたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

よろしくお願ひしたいと思います。

次に、瀬戸屋敷が10年を経て今後の10年、20年を見据えたときに、答弁にございましたように、美しい原風景の再生を中心に景観をつくっていきたいと言われてまして、大いに期待するところでございます。それで、私、この新聞なのですが、市民がつくる町歩き観光ということで、市内の有名な観光地以外にも数多くある隠れた魅力を知ってもらおうと、市民がガイドを行いツアーの企画を持ち込むなど、10年ぐらい続いて喜んでいただいているという、そういう事例が新聞に載ってございました。

町をぶらぶら歩く、そういうことが開成町を知っていただくということで大変有効な手だてではないかと思ひます。開成町にも、北部でNPOを取っていらっしゃる事業をやっている方で、昨年から北部地域のこういうチラシを自前でおつくりになって、11カ所ほどですけれども、こういった写真入りで5,000部ほど印刷されたのを、ひなまつりとかあじさいまつりのときに訪れた人たちにお配りして、大変喜ばれております。そして、写真に載った方なのですが、園芸店があったり農園店があったり酒造店があったり、文化や芸術をお伝えしているギャラリーがあったりで、北部地域の掘り起こした部分では大変意義があるかなと思っております。

そういった手前でやっている個人的な、NPO法人は取っておるのですが、町としては、そういう人たちを支援して育成していくという、今後、さらに発展させるために、こういった新聞にも大きく取り上げられておりますように、市民が主体となって地元の魅力を伝えるまちづくりは着実に広がっておることが書かれてございますので、開成町にも、こういったいい事案がございますので、そういったことの取り組みを今後、町としてされていくというお気持ちはあるのでしょうか、お伺ひいたします。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

実質的にNPOの皆さんが北部地域の活性化のために自分たちで散策をしてチラシをつくって配っていると、大変ありがたいことで、そういう人たちの団体を支援する仕組みというのは今、実はありまして、町民活動応援事業ということで10万円の補助金がありますけれども。そういう中で、いろいろな各種団体、これは個人ではなくて、そのような人たちが地域のためや町のために活動していただけることに対して応援をしようということで、そのような補助事業もやっておりますので、そういう皆さんがおられれば、そういう中で申請をしていただいて、その団体が自立できるように、また、さらに支援をしていけるような仕組みとして考えておりますので、ご紹介をいただければと思います。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

ぜひ、よろしくお願ひしたいと思います。

次に、二つ目の質問事項で、瀬戸屋敷を中心とした景観づくりの今後はということですが、北部地域の活性化の核になる部分は、やはり古民家、瀬戸屋敷であると考えてございます。その魅力をさらに高めるために、私は、答弁にございましたように、周辺の景観はすばらしいものが構想としてあられるなと思って本当にうれしく思っているわけですが、私が今回質問したいのは、瀬戸屋敷が正面から見て入り口がどこかわからないという、季節的な樹木が生い茂っている部分が年間を通してあるようでございますので。そして、また、樹木の剪定とか梅の木も枯れてきておりますので、樹木医を採用されて瀬戸屋敷自身の景観を見直してみたいかなと思ってございます。その点の町のお考えをお聞きいたします。

○議長（茅沼隆文）

産業振興課長。

○産業振興課長（井上 新）

ありがとうございます。瀬戸屋敷の維持管理の部分かと思うのですが、現在、町のほうでは、どのような形でそちらのほうの管理をやっているかと申しますと、まず、瀬戸屋敷、大分、木も大木が多くございます。大木の部分の本数が大分多いものですから、年間で、例えば27年度、今年ですけれども、今年、高木の剪定を5本ほどやらせていただいております。一遍にはなかなか経費がかかるということで、毎年、高木の部分から順番にやらせていただいております。大体、先ほどのちょっと訂正もあるのですが、ひなまつりが3月7日と言いましたけれども、3月6日までなのですけれども、ひなまつりの開催前には、お迎えの部分で、そういったところもきちんとした形で、きれいな形で対応できるようにということでは、やっております。

あと、低木とか、そういったところで、瀬戸屋敷の管理人も常駐しておりますので、そういったところでは草取りであったりとか、もちろんシルバーさんのご協力も得ながらやっている部分はございますけれども、なるべく自分たちでできる部分は自分たちでやっていこうという形では工夫しながらやっているところでございます。

あと、樹木医の関係ですけれども、開成町も造園業者さんが何社かございますので、そちらのほうの方のご意見をいろいろお伺いをしながらやらせていただいております。例えば、今年、高木の剪定をした中で、カエデの剪定を一部、入れさせていただいたのですけれども、ちょっと枯れ出しているかなといったところでは、手を入れて、もう少しきちんと管理をしたほうがいいなという部分も工夫しながらやっているところでございまして。専門的に樹木医を入れてといったところも一つは考え方としてはございますけれども、そういった造園業者さんとの調整の中で、

今、対応をさせていただいているところでございます。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

樹木医はわかりましたのですが、梅の木が枯れてきておるということですので、その点をどういうふうに町ではお考えでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

産業振興課長。

○産業振興課長（井上 新）

大変失礼いたしました。梅の木の関係でございますけれども、私も昨日、ひなまつりの会場に参りましたけれども、剪定がちょっと行き届いていないかなといったところでは感じているところでございまして、それが枯れているとか、そういったところの状況ではなかったかなと。ただ、剪定は確かに必要な状況になっているなと。梅の花も咲いてございますので、そういったところでは、ちゃんと剪定をしながら、もっときれいにといったところでは、町のほうでも考えていかないといけないというふうに感じているところでございます。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

よろしくお願ひしたいと思います。

次に、瀬戸屋敷の正面の玄関が大木が生い茂ったときにわかりづらいということでございます。正面の塀よりも低木の木を植えるとか、以前は県の事業で花紀行ということが5年間実施されて、松田、開成、南足柄市の1市2町でなされたわけですが、そのときもウオーキングとかお花を見に来られる方々で大変にぎわったという事例もございます。金井島の地域は花づくり同好会が活躍されているようですので、協力をいただいたりして瀬戸屋敷の正面にもう少し四季折々のお花を植えるとか、そういったおもてなしの景観づくりをお考えになるということはいかがでしょうか、お伺ひいたします。

○議長（茅沼隆文）

産業振興課長。

○産業振興課長（井上 新）

ありがとうございます。まず、正面のところでございますけれども、正面のところには、マキの木であったりとか、いろいろ高木の部分がございましてけれども、それは長年、瀬戸屋敷のほうで培った中であるものでございますので、ある意味、瀬戸屋敷の一部といったところもございまして。その辺、中に入ってくださいと、もちろん瀬戸屋敷がぱっと見えると。門を閉めると、ちょっと瀬戸屋敷が見えないなといった状況かなと思います。そういった事情の中でございますので、ご理解をいただければなというふうに思います。

また、門の手前の先ほどの梅の木の周辺だと思うのですが、今、瀬戸屋敷の東の畑の部分で、金井島の花づくり同好会さんにもご協力をいただきながら四季の花を、ちょっと前まではざる菊といったところではございますし、そういった中ではご協力をいただいている部分でございますので、瀬戸屋敷の正面部分、その部分の四季折々の工夫といったところでは、私どもも一緒になって工夫してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

今、府川町長は上郡の町村会の会長でありますので、花紀行ではございませんが、5年間やって非常にお客さんを呼び込めたという事例がございますので、松田とか南足柄等、近隣のそういうところと連携をとり、リーダーシップをとられて、花紀行ではございませんけれども、復活させて拡充されるようなお考えは町長にはございますでしょうか、お伺いします。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

この地域に外からお客さんを呼ぶには、花というのはすごく大事だと思います。大井町は水仙の花が町の花ですが、菜の花というので、よく話も出ますし。今回、ひなまつりにおいても、大井町のひなまつりと松田のハーブ園のおひなさまと開成町と南足柄と、連携しながら今回もさせていただいておりますけれども、やはり松田の桜、開成のひなまつり、いろいろな組み合わせの中でトータルでPRをすることによって外からお客さんが見えられていますので。花というのは、一つのキーワードとして足柄地域全体に外からお客さんを呼ぶには必要なことだと思いますので、それは、各町のそれぞれのよさを組み合わせながら、連携しながら、これからも考えていきたい、進めていきたいと思っております。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

よろしくお願いいたします。

続きまして、三つ目の町のイベントにかかわる南北の足の確保策はについてお伺いいたしますが、現行のシャトルバスの運行は開成駅と瀬戸屋敷とのピストン輸送であります。これは、町外の方、つまり観光客専用の部分が高いわけで、町民の皆様に北部に来ていただくためには足の確保は不可欠だと感じております。本年度から試験的に運行している町内の巡回バスを使用することも可能と考えるという大変うれしい答弁をいただきました。実は、今回、私もいろいろ聞き取り調査をしましたところ、岡野地域の高齢者の多くの方たちが南部地域に行ったことがないという

お話でした。

バス会社にお聞きしましたら、ピストン輸送のコースを変更するのは、南部地域の件ですけれども、停車する自治体に許可をもらったり、大型バスは道路幅もあって大変難しいので、開成町では巡回バスが走っているので、それをぜひ活用されるのが一番、町民に喜ばれるのではないですかというふうに教えていただきました。そういう点では巡回バスも可能であるということで、特に北部地域は、今回、聞き取り調査をしまして、巡回バスが走っていて町役場にも行けているよとか、大変喜ばれているお言葉もいただいているわけですが、南部地域には行ったことがないという方がほとんどでございました。ぜひ、開成町の南部、中部の方々にも北部地域の水と緑と自然豊かな開成町のすばらしさを味わっていただき、元気発信ができればと思います。

そして、岡野地域の人たちが、今、開成町がこんなに栄えて元気であるよという、そういうお姿を見ていただく。南小学校ができておりますし、先進的な研究所の富士フィルムもございますので、そういったところも見ることがないとおっしゃいますので、イベントのときだけではなく、そういったところも皆さんに行ってもらえたら私は大変うれしいかなというふうに思いますので、ぜひ、よろしくお願いしたいと思います。

続きまして、四つ目の子どもたちの元気な声が響く施策はということでございますが、以前、町長が金井島の緑陰広場に常設のプレイパークを将来的にはつくりたいというようなお言葉を頂戴した経緯がございますので、その点の質問をさせていただけたらと思ったのですが、答弁にございましたように、今後の北部のあしがり郷拠点整備基本計画のご説明の中にすばらしい計画書がございまして、ご答弁の中の内容をお聞きしましたら、子どもたちが本当に実体験に基づいた経験をさせていただけるということで、開成町の教育の町にふさわしい。

本当に1からホタルの養殖ですか、そういうこともかかわっていくとか、本当に作り上げていく、生物が卵からかえって成長していく、そういう姿を実体験で味わえたり、レンゲ畑では種まきからなるとか、そういったことをご答弁いただきまして、大変すばらしい施策だなという、私も本当に期待をしているところでございます。

1点ですけれども、緑陰広場の常設のプレイパークは、今後、どんなふうな形で持っていけるか、お伺いしたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

以前、下山議員が言われたように、もともとの緑陰広場の使用が、第二幼稚園ですか、そういうことで取得されたというのがありましたので、できれば子どもたちに関係するものがあそこにできたらと思っております。

今、北部地域のあしがり郷拠点整備の中で、いろいろな北部の人たちのご意見を

お伺いしながら進めていこうという中で説明会等もやっておりますので、そういう点において、これから北部地域の皆さんのご協力がないと、なかなか、そういう点も進めていけませんので、それも含めて、北部地域の活性化の中であわせながら、その場所の今後の方針についても検討していきたいと考えております。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

ぜひ、よろしくお願いしたいと思います。

まちづくりは駅伝と同じで、次の代から次の代へと着実につないでいくのが成功することで、また町民に喜ばれるまちづくりであると言われた方がおられます。平成27年度は町制60周年記念事業も盛りだくさんあり、子どもたちから大人までの方がスポーツや文化・芸術の面でも県や多方面から大変名誉ある賞をたくさんいただいております。先ほどお示しいたしました広報紙の表紙ですけれども、6カ月間の表紙の、これも県から表彰をいただいたということを、私、ある雑誌で目に振れました。そういうこともどんどん町民に発信されたらいいかなというふうに思います。

開成町は地の利にも大変恵まれておりますし、東名から数分であり、世界の富士山や箱根があるエリアであると認識してございます。先ほど町長は、子どもたちのそういう部分での人づくりにこれから力を注いでいくというふうに、特に、子どもたちに実体験を経験してもらって、ここに生まれて育ってよかったと思っていただける、町民が主役で、いつまでも住み続けたいと思えるまちづくりをされて、開成町らしさを強調され、南部地域と北部地域の連携と交流で全国に発信できるすばらしい施策を今後、期待して私の質問を終わらせていただきます。

○議長（茅沼隆文）

自治活動応援課長。

○自治活動応援課長（遠藤直紀）

先ほどご質問のありました内容につきまして、回答させていただきます。

自治会未加入者向けに、公共施設等に配架している内容でございます。先ほど議員がおっしゃられましたように、ほぼ250ということですが、まず役場と町民センター、それから福社会館、瀬戸屋敷、開成水辺スポーツ公園、開成駅、それと合同庁舎、こちらが公共施設になります。それと、マックスバリュさん2店ですね、それと各コンビニエンスストア、それから郵便局さんと、あと金融機関にお配りしております。不足する場合は、駅前ですとか役場の中などは補充をしているというようなところで対応しております。

以上でございます。

○議長（茅沼隆文）

これで下山議員の一般質問を終了いたします。

暫時休憩といたします。再開を10時45分といたします。（午前10時30分）